



会報 第 41 号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校 同窓会
● 編集 ●
同上 編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 井上総合印刷



家 風



同窓会会長

菅 谷 善 六

会員の皆様には、ご壮健にて、それぞれの職域で活躍のこととご推察申し上げます。

昨年は、熊本県、大分県、鳥取県等で大地震があり、加えて、東北地方

では台風による大災害がありました。被災された方々にお見舞い申し上げます。

平成七年の阪神・淡路大震災からこれまで多くの自然災害があり、尊い

命が奪われ、また、自然崩壊が危惧されており、一日も早い復旧を祈念申し上げます。

さて、母校も平成七年、真岡北陵高校と校名を変えて、早二十余年、創立百十年を迎えることになりました。教育の成果は十分上がっているのと、ご同慶に堪えません。現在、同窓会、PTA、本校職員で構成された百十年記念実行事業委員会を進めております。同窓生皆様のご協力をお願い申し上げます。

知人の紹介で、ある家庭の庭園を拝見させていただけることになった。主人は仕事で不在のことが多いので、その日も家には夫人と小学一年生の男の子だけであった。庭園を見ていると、奥の部屋から話し声が聞こえてきた。あいさつがわりに持参した、ささやかな手土産についての会話である。それは「お父さんにも見せてからね」という母親の言葉で終わった。やがて、子供は「公園で友達と遊んで来る」と明るく弾んだ声を残して家を飛び出していった。

この家の家風がしのばれて、ほのぼのと心が温まる気持ちになった。父親が不在がちでも、この子の心にはいつも父の姿があるのだろう。

家庭教育の重要さが再確認された。当然のことである。子供の教育は、家庭と社会と学校とが分担して受け持つべきである。

ところで、今、家庭教育にはさまざまな問題点が指摘されている。父親の不在もその一つである。父親の不在は確かに問題であろう。しかし、父親の存在は、遊園地に連れて行くことで確認されるものではない。母親についても同様で、大切なのは、家族全員が、それぞれに位置を家族の心の中に占めていることだと思ふ。父親が不在がちだから、母親が忙しいから家庭教育ができない、とは、必ずしもいえないはずである。家庭教育は、家族の何気ない言葉にも存在する。意識して教育するのはなく、家庭に漂う、それぞれの家庭特有の雰囲気、教育力を持ったければならない。それが、無言のうちには子供を導く家風なのだ。教育の原点はここにあると思ふ。

家風という言葉は、過去の封建的なイメージのため使われなくなってきた。しかし、今こそ新しい家風づくりが必要なのではないだろうか。

「お父さんにも見せてからね」。帰る道、何度か心の中で繰り返したのである。

おわりに、本会のますますの発展と会員の皆様のご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

次への飛躍



校長
大 木 高 之

平成二十九年の新年を迎え、同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校教育活動に對しまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年は本校にとって記念すべき節目となる創立百十年を迎える年となります。現在まで、創立百十年記念事業の準備委員会を二回、そして今年度、同窓会の役員の方々を中心とした実行委員会に切り替え、これまで二回の会議を重ねる中で、記念事業を決定するとともに、各記念事業の実施に向け準備を進めているところです。また、本校職員による校内実行委員会を組織し、分掌に基づく記念事業に関する詳細な計画の立案、さらに、タイムスケジュールに沿って各記念事業を遂行すべく取り組んでいます。

記念式典につきましては、十一月十五日吉日に真岡市民会館を会場にして挙行する計画になっております。記念事業については、老朽化した同窓会館の改修をメイン事業としました。改修工事については既に完了していますが、本校の歴史を記す展示室の整備については、現在校史資料等を整理している段階です。また、会館を有効活用するため、水道を設置し、茶道部と日本音楽部の活動場所として提供しています。その他の事業として、過去十年の歴史を綴った記念誌の発行、吹奏楽団による記念芸術鑑賞会、創立八十周年記念樹桂の木由来を示す碑の建立、未来につながる北陵高校の校舎全景航空写真の撮影を予定しています。

このような伝統に支えられた本校は益々輝きを増し、今年度は例年以上の目覚ましい活躍が展開されましたのでご紹介いたします。部活動では、ラッフル射撃部が今年も大きな成果をあげており、特に三年三組の野口早也佳さんが、全日本ビームライフル射撃選手権大会、第七十回国民体育大会女子団体ビームライフル女子個人において優勝しました。また、全日本ジュニアビームライフル射撃大会、関東高等学校ライフル射撃競技大会女子団体でも優勝を果たしています。さらに、栃木県で開催された冬季全国高校総体フィギュアスケート大会に、栃木県代表

表として二年三組の伊藤麻結さんが出場して素晴らしい演技を披露してくれました。写真部は、写真甲子園北関東ブロック大会への出場、三年三組の木村沙弥香さんが農業関係高等学校農業・農村フォトコンテストにおいて最優秀を獲得するなど活躍が目立ちました。この他にも、野球部は十四名という少ない部員で夏の県高校野球選手権大会に臨み、一回戦で強豪宇都宮南高校と対戦し見事勝利し、続く二回戦は甲子園六回の出場を果たしている佐野日大高校と対戦して、終盤まで無得点の攻防を演じましたが惜しくも〇対一のスコアで敗退しました。これらの活躍は関係者から高い評価を得ました。他の部活動についても日々の練習に精一杯取り組んでいる姿が見られ、今後の活躍に一層期待が持てることと確信するものです。

一方、専門学習においても目覚ましい活躍が展開されており、農業系学科においては地域連携・地域貢献を目的とした取り組みを積極的に行っています。特に今年度は新たな取り組みとして、真岡市社会福祉協議会と連携事業を立ち上げました。生物生産科では草花や作物の栽培を通して障害者への理解を深める交流を行い、農業機械科では課題研究の授業の一貫で、さくら作業所の看板づくりに取り組み、専門学習の深化を図っています。また、食品科学科では地域資源のイチゴを活用した商品開発に積極的に取り組んでおり、「いちご飯」の普及活動はもとより、新商品となるイチゴスイーツの開発を目指しています。総合ビジネス科では高度資格取得のための課外授業を実施しました。その成果として三年生の全商検定一級合格者を飛躍的に増やすことができました。一級を五つ取得した五冠を四名、四冠を四名、三冠を八名出すことができました。また、県商業高等学校電卓競技会においては、初出場ながら準優勝に輝きました。教養福祉科では、昨年三月の卒業生全員が介護福祉士の国家試験に合格しています。また、二年生の松田ユゼルさんが全国福祉高等学校長会生徒体験発表に出場し、見事最優秀賞を獲得し、合わせて文部科学大臣賞を受賞しました。さらに、今年度初めて実施された栃木県高校生介護技術コンテストにおいて、介護技術部門で最優秀賞を獲得しています。

三年生の進路状況については、就職希望者百五十五名全員が内定を勝ち取ることでありました。また、進学者は四年制大学が十名、短大が五名、衛生福祉大学・県農業大学校を含めた専門学校等が四十五名となっています。特に今年は、宇都宮大学に総合ビジネス科の

法師人美輝さんが挑戦し、五年振りとなる国立大学合格を果たしました。これら今年度の生徒の輝かしい活躍や実績は、百十年という歴史の中で次のステージへの飛躍につながるものと思っております。

私事で誠に恐縮に存じますが、この三月を以て教員生活に終止符を打つことになりました。教員としての集大成の時を歴史と伝統ある真岡北陵高校で迎えられたことを大変名誉に思うと同時に、活力ある生徒たちと出会い、そして、様々な場面で活躍する勇姿を多く見られたことは、私の生涯に渡っての財産であり、誇りでもあります。振り返りますと、本校での四年間は責任感や使命感によるプレッシャーの連続でしたが、菅谷同窓会長様をはじめ、役員の皆様、そして全ての同窓生の皆様のおかげで支えにより、これまでやり遂げることができたものと心より感謝申し上げます。

結びに、本校の更なる発展を祈念し、今後とも同窓会の皆様方の相変わらぬ温かいご支援・ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。会報発刊の挨拶といたします。



PTA活動を振り返って



PTA会長
鈴木 康 弘

今年度PTA会長を仰せつかった益子・茂木支部の鈴木康弘です。日頃より同窓会の皆さまには、生徒達のため、そしてPTA活動に對しまして、ご理解とご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。今年度も、北陵祭において伝統になつたPTA食堂を開催する事が出来まし

続いて伝統ある持久走大会では、PTAとして豚汁作りで参加しておりスタート前から「美味しいう豚汁期待してるよ」と言われ私たちも心をこめて作りました。ゴールした生徒達が「おもしろい」「美味い」とお礼をい

春の叙勲、第二十八回危険従事者、瑞宝単光章を東京市ヶ谷の防衛省におきまして、勲章並びに証書を頂戴いたしました。午後、皇居宮殿に於いて天皇陛下に拝謁の機会を賜り、労いの言葉をいただき、真に感激の極みでございました。

私は昭和三十年農家の長男として生まれ、何の迷いもなく農業高校に進学しました。在学中に露地トマトやかんぴょう稲作の手伝いをし、将来は野菜栽培を

卒業するころになると、多くの友人が企業に就職して行き、私が進路を決めかねている時、自衛隊広報官の方から自衛隊に於いてのいろいろな話を伺い自衛隊の試験を受けてみました。十八歳から五十四歳まで三十六年間陸上自衛隊に勤務し多くの仲間や先輩に恵まれ私の財産となり、真岡農業高校で培った粘りの精神のおかげで、使命を全

うすることができました。忘れもしません昭和六十年八月十二日の日航ジャンボジェット墜落事故では、現場も見え生き残った人がいたのが不思議に感じる惨状でした。災害に限らず常に行動に備えて心の準備をしておかなければならないと感じました。

私の現在の生業は、平成二十一年より父親と一緒に稲作を1・8ヘクタールをし、平日は会社に夜勤しております。最後にこれまでも元気に過ごしてこれたのも皆様同窓会のお陰と感謝しております。在校生の皆様、歴史と伝統ある北陵高校での日々の生活を有意義に過ごされ、御活躍をお祈り申し上げます。

叙勲おめでとうございます



春の叙勲
昭和四十七年卒 稲毛 義 則

青年部部长あいさつ



平成二十一年度卒
小 玉 裕 貴

平成二十八年四月より青年部部长としております小玉裕貴です。

この度、会報の発行にあたり、御挨拶申し上げます。

日頃より青年部の諸活動に對しまして、同窓会の皆様を始め、先生方には、御指導、御協力を頂きまして誠にありがとうございます。

同窓会青年部の活動としまして、学校祭などの様々な行事に参加した

り、視察研修などを行ってきております。しかし現在、青年部の人数が減少傾向にあり、行事への参加、イベントの実施が困難になってきております。

今年、卒業される方で、協力できるという方は、是非、活動に参加して頂きたいと思っております。最後になりますが、今後とも青年部をよろしく

お願い致します。

恩師の言葉



昭和三十九年卒 梅 澤 肇

平成二十八年春の叙勲に際し、瑞宝単光章の栄に浴することになりました。

五月十一日、皇居において、天皇陛下に拝謁し、陛下から「長い間、地域住民のために危険な業務に従事されたので、皆が安心して暮らすことができた。今後は体を休めてゆっくりとお過ごし下さい。」とお言葉を賜り、感激の極みと慶びでございました。

これらもひとえに、母校の先生方や同級生の皆様方のご厚情と深く感謝いたしております。

私は、卒業と同時に、真岡市消防本部に消防吏員として採用され、四十二年間奉職させていただきました。

その時の恩師が「石の上にも三年」と、はなむけの言葉を下さり、三年辛抱すればその先が明るく見えるから真面目に働きなさいと話されたことを今でも思い出します。

同じ頃、祖父から何で

農業経営イノベーション動機と変遷



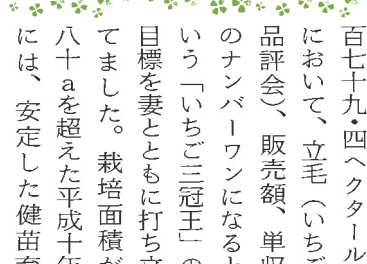
昭和四十八年卒 新 井 吉 隆

昭和四十九年に就農、最初に家族で、三十五アールのいちご経営をしていました。昭和六十一年から、こも掛け方式だった収穫ハウスの保温を、豊富な地下水を利用したウォーターカーテン方式に、徐々に切り替えるとともに規模拡大を図りました。さらに翌年、昭和六十二年には地域での数名の仲間といち早く当時最新技術であった夜冷育苗装置を導入し、生育の安定並びに保温の低コスト化と、「女峰」による早出し作型の技術の確立に努めました。ところが、平成三年に、過重労働により体調を崩してしまつたことから高収穫と労力軽減の両立に腐心し、家族や雇用者が余裕を持って働くことのできる環境作りを目指し、そして、日本一であるJAはが野いちご部会(平成二十八年産、部会員五百八十二戸、栽培面積百七十九・四ヘクタール)において、立毛(いちご品評会)、販売額、単収のナンバーワンになるという「いちご三冠王」の目標を妻とともに打ち立てました。栽培面積が八十haを超えた平成十年には、安定した健苗育

成、確保を目的に、空中採苗(ナイアガラ)専用ハウスを設置し、さらに、平成十三年に高設ベンチ栽培を連棟ハウスを導入し、収穫作業の大幅な省力化を図るとともに収穫終了後の株から空中採苗方法によりランナーを発生させ、次年産用定植苗の確保に努めました。平成十三年に主力品種を「とちおとめ」に切り替え、夜冷育苗装置三基による早期安定出荷を確立し、地中暖装置、炭酸ガス発生装置など、積極的に最新技術を導入し、試行錯誤を繰り返しながらも技術を改善できたことで単収並びに品質が向上しました。規模拡大に伴い、作業の効率化と労働負荷の軽減のため機械化できる作業は積極的に大

型機械を導入し、省力化に取り組みました。平成二十年以後継者の就農を機に規模を一ヘクタールに拡大、その後も増反し、現在、いちご百二十三アールを家族四人、常時雇用者を三名、臨時雇用者を四名、技術実習生四名で経営している。特に丁寧な作業を行う女性を中心に採用しており、現在十名が女性で、労務管理全般を妻が担っており女性らしい気配りで個別の労働の質が高まり、生産性が格段に向上しました。

このように数々のイノベーションを起こしながら苦労を重ね、規模拡大に取り組んだ結果、販売額は三年連続で部会ナンバーワンに達し、目標のいちご三冠王達成に頑張っています。



各科の近況

生物生産科

科 長 後 藤 至 人

生物生産科においては、「農業経営や農業関連産業のスペシャリストになる」ことを目標としており、以下の三つの方針を掲げ、学習活動に取り組んでいる。

- ①栽培や飼育、農業経営に関する知識や技術を学習し、農業及び農業関連産業に就くために必要な能力・態度を学ぶ。
- ②農業実習・研修、農業クラブ活動、ボランティア活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力や問題解決能力を身につける。
- ③農業や環境を主体とした幅広い能力を養い、地域に貢献できる人材の形成を目指す。

これらの方針に基づいた平成二十八年度の具体的な活動について以下に報告する。



共進会

六月十日には同じく三年生の草花選択生徒によるシクラメンの栽培管理について、日光市のイッセイ花園様にご教授いただいた。

九月十二日～十五日には二年生のインターンシップを実施し、各農家・事業所様のご厚意により、研修を実施すること



真岡幼稚園



真岡西小

とができた。

十二月十六日には一年生による大学・先進地見学として、帝京大学、ろまんちっく村、イオンアグリ創造株式会社の見学を行った。

【各種大会】

農業クラブ家畜審査競技会においては、三年荒円香が優秀賞をいただいた。第二十六回栃木県ホルスタイン共進会においては、三年松井七海が三位で入賞し、埼玉県で行われた、第十八回関東地区ホルスタイン共進会に出場した。フラワールンジメント競技会では、三年西村美加が優秀賞をいただいた。

【ボランティア活動】

就労継続支援施設さくら作業所において、サツマイモ定植や収穫、花壇整備、収穫祭参加など様々な形で、施設利用者の方々と交流活動を行った。

農業機械科

科 長 藤 田 将 輝

農業機械科の生徒活動状況と学科の取り組みについて、紹介します。

①平成二十八年六月二十五日(土) Honda

エコマイレレッジチャ

レンジ二〇一六第八

回もてぎ大会に五〇C

Cカブバイク部門に参加した。課題研究に

て、五〇Cバイクは

近所の農家で三年以上も放置してあったバイ

ク(ホンダ スーパー

カブ緑)をメンテナンスして大会に臨んだ。

昨年は、見事完走し、七位という結果になっ

た。今年は周回計測を間違えて、一周多く走

行してしまい「失格」ということになった。

来年は計測を含めたサポートメンバーも鍛え直して、好成績を目指していききたい。

②平成二十八年七月二十六日(火)に栃木県庁で開催された「平成

二十八年度起業家精神育成事業 コンペティ

ション」において、農業機械科二年・上野結

希、小関奈都希、高橋

美紀、梅野玲利、小野

瀬雄太、寺崎亮太、小

井田陸、一年・大塚悠

輝、齋藤義輝が「シク

ラメン移植用ポットイ

ングマシンの開発」という題目で発表した。

③平成二十八年八月一日(月)平成二十八年度「ス

タディ・フロンティア

推進事業」「アクティ

ブ・スクール」プランが採択された。取組

テーマは「地域のボラ

ンティアや教育資源を活用したアクティブ

ラーニングの充実」ということで、概要は農

業・商業・福祉の専門

高校生の目線で、地域

の課題を発見し、解決しようとする実践力を

養う。積極的に地域のボランティア・イベン

ト等に参加し、そこから見えてくる課題を検

討する。イメージ戦略や特産物のPR方法を

学識経験者や地域振興に携わる方々に相談

し、解決方法を探っていく。このことより、

説明や交渉等における思考力・表現力、異世

代との交流によるコミュニケーション能力

参加した。「架け箸プロジェクト」とは、北陵高校と真岡工業高校が連携し、老人ホーム「椿寿園」の利用者の方々のために竹で手作りのお箸を作り、寄贈するボランティア活動である。一日目は、真岡工業高校、真岡東中学校など他校の参加者達と自己紹介やジェン

④平成二十八年八月八日(月)・九日(火)に真岡市社会福祉協議会の方から、「架け箸プロジェクト」の依頼を受け、

残念ながら、最終発表へと進出できなかったが、継続して研究をしていききたい。

⑤平成二十八年十月二十八日(金)障害者のための就労継続支援施設「さくら作業所」の看板作成依頼を受けた。

⑥平成二十八年十一月五日(日)に栃木県立県産業技術専門学校で開催された「とちぎものづく

り技能競技大会 溶接の部(第七回栃木県高等学校溶接コンク

ル)」において、農業機械科一年 榎木勇也が三位(技能賞)、二年 関谷祐汰が五位

(入賞)となった。上位の得点を見てみるとほとんど差がなかった。来年度は関東大会に進出できるように取り組んでいきたい。

以上のように農業機械科で習得した技術を発展させて、各種大会やボランティアに参加している。今後も地域に貢献できるような人材育成に取り組んでいきたい。



溶接コンクール授賞式



さくら作業所看板作成

食品科学

科長大塚昌法



3年専門学校見学体験研修会(TBC) 2年キャリア形成支援事業(洋食実習) 1年先進地見学(横浜・安藤百福記念館)

食品科学科では、一食品関連企業への従事者を養成する学科」として、農産物や畜産物の加工や製造技術及び販売指導を重点目標に学習します。

パン類では、食パン、フランスパン、クロワッサン、メロンパン、クリームパン等をめん類では、そば・うどん・パスタ・中華めんを、ジャム類では、イチゴジャム・ブルーベリージャム、リンゴジャムを製造します。肉加工品では、ベーコン・ウィンナーソーセージを製造します。また、スポ



食品科学同好会の活動

「おやまグルメフェスタ」に参加

一年生は、毎年、県内外の先進的な食品企業との先見学研修があります。今年見学研修が行われますが、今年度は神奈川県横浜にある安藤百福記念館（カップヌードルミュージアム）にて研修を行ってまいりました。二年生は九月にインタナショナル推進事業を実施しました。勤労意識の涵養あるいは食品関連産業技術者の育成をねらい、真岡工業団地及び清原工業団地の食品関連企業、宇都宮市内や真岡市内及びインターパーク内店舗、真岡市内菓子店各スーパーの総菜店等で生徒は体験実習を行いました。また、十二月にはキャリア形成支援事業として、調理専門学校から

真岡市井頭公園で実施された「とちぎ元氣グルメリまつり the Final」において、グランプリを受賞した『いちご飯バーガー』の反響は大きく、今年度も各種イベントや取材協力の依頼を受けました。イベントは「真岡木綿まつり」、「おやまグルメフェスタ」、「真岡市大産業祭」の三つに参加し、いずれも大きな成果をあげました。メディアにおいては、とちぎテレビや読売新聞、下野新聞、真岡新聞などから取材を受けました。こういった食品科学同会の活動は、栃木県レベルでも、高い評価を受けるなど、北陵高生として大活躍しています。

講師を招き、洋食実習の指導を受けました。三年生は七月に専門学校体験学習会が実施され、専門学校での授業や実習の様子と充実した設備を見学しました。また、キッチンスタジオにて、洋食やスウィーツの調理実習を体験しました。

各資格取得の指導は、食生活アドバイザー三級、ボイラー取扱技能講習、危険物取扱者資格丙種・乙種ワープロ検定等にチャレンジし、大きな成果を上げています。特に学科として最も力を入れていた食生活アドバイザーの二級合格者が数名でたことは、学科はもちろんのこと、後輩達にも大きな影響を与えました。

農業クラブの活動では、プロジェクト発表で優良賞、意見発表では食料生産と文化生活の二部門で県大会出場をはたし優良賞を受賞しました。また、農業クラブ全国大会の農業鑑定競技食品科学コースに出場したが、入賞はなりませんでした。

その他として、食品科学科の生徒有志からなる食品科学同好会の活動を報告します。一昨年度に

総合ビジネス科、
一歩前進!!

科長 石川 比呂也



準優勝の賞状とメダルを持って満面の笑顔

今年度の三年生が宇都宮大学農学部農業経済学科に合格しました。「総合ビジネス科三年四組の法師人 美穂さん」です。昨年のこの欄で「二十年前の覚悟」の紹介をし、三年目の今年がその結果の年でした。入学当初から卒業後の進路を見据えた指導の成果です。高校の先生志望という人物がやと現れました。四年後が大変楽しみます。是非、北陵高の総合ビジネス科に先生として戻って来ることを期待します。

今年の総合ビジネス科は積極的に活動しました。特に三年生は結果も満足できるものを残しました。

全国商業高等学校珠算・電卓競技大会
栃木県卓子選会 電卓の部

平成二十八年六月四日(土)会場 佐野松桜高等学校
団体準優勝(三年四組の七名が参加)

初めての第二位

平成二十八年七月七日(木)
会場 足利市民プラザ文化ホール
奨励賞 (三年四組の八名
が参加)
発表テーマ 合同会社
(LCC) の設立に向けて

第十一回江戸川大学
簿記コンクール

平成二十八年九月三日(土)
会場 江戸川大学
(千葉県流山市
三十五チーム参加)
第十二位 (三年四組の三
名・二年四組の三名が参
加)

などのコンクールに参加
しました。大健闘・大活
躍の一年でした。

東京証券取引所へ行ってきました。
テレビで見ると同じで
(3年 商業機関見学)



東京の大学見学と大学の授業を受けてきました。

特筆事項は、最も時間を割いた検定試験の成績です。見事な成績を収めました。三冠取得と呼ばれる、三種目以上の一級合格者が十六名でした。(昨年までは毎年〇(一名でした))

内訳は

- 五種目合格の五冠達成者が四名
- 四種目合格の四冠達成者が四名
- 三種目合格の三冠達成者が八名で合計十六名です。

記憶に残る中では過去最高の成績です。二年から担任を引き受けていただいた国語科の小川裕子先生の指導の賜物です。(商業科以外の先生の熱烈指導は新鮮な感動です。)

三年間の試行錯誤が、やっと軌道に乗り花が咲き始めた感があります。二年生も同様の期待が持てる状態です。(二年担任は商業科の大山正人先生です。専門教科のプライドにかけて、結果を見据えた指導をしています)総合ビジネス科の後輩達には「頑張っています」。

教養福祉科

科長柳路子

超高齢社会の今、實の高い「介護福祉士」が必要とされている。そのニーズに応えるため、本校では教養福祉科が平成七年に設置され、今年度の卒業生が第二十回生となる。

今年度は、全国福祉高等学校長会主催生徒体験発表において、二年生の松田ユージェルさんが、文部科学大臣賞を受賞した。実体験を元に、自分の介護に対する考えを堂々と発表した。また、第一回栃木県高校生介護技術コンテストでは、三年生チームが利用者の自立支援を第一に考えた介護技術を披露し、最優秀賞を受賞した。これらの入賞は、日々の学習が、知識や技術の習得だけに留まらず、思考力や判断力、表現力として着実に身につけているものであると考える。

今年度も学習活動の中に、最先端で活躍されている方々を講師に迎え、福祉の現場をより身近に感じることができると専門的な授業を行った。今年度から新たに実施した真岡さくら作業所の収穫祭への参加は、利用者との交流を通して、障がい者支援や地域での福祉活動について、一年生の視点から考えるきっかけとなった。また、三年間で五十五日間の介護実習は、専門的な知識や技術だけでなく、態度や身だしなみ、礼儀など、多くのことを学ぶ機会でもある。生徒は、心身共に大きく成長し、進路に繋がる生徒も多い。

卒業年時には、一番の目標である介護福祉士の国家試験に挑戦する。合格率が全国平均六十パーセント前後であるのに対し、本校は常に九十五パーセント以上の高い合格率を維持している。この結果は、生徒ひとり一人の努力は勿論のこと、実習先をはじめとする地域の温かい応援があったことである。介護福祉士に対するニーズは、今後も益々増大する。心豊かに信頼される誠実な「介護福祉士」として、地域に貢献できる人材に成長してくれることを期待する。



生徒体験発表 文部科学大臣賞受賞
2年 松田ユーゼルさん



医癡的个了 吸引校内演习 (2年生)



栃木県高校生介護技術コンテスト 最優秀賞受賞
3年 岡本さん・橋本（灯）さん・細川さん



さくら作業所 収穫祭への参加（1年生）

三回体の活動内容

生徒会活動を振り返って

三年二組 上野 元 気

私が生徒会長に立候補し、当選してから一年が経ちました。希望と不安の両方が心にある中、生徒会活動が始まりました。初めの頃は本当に私に務まるか不安でいっぱいでしたが、副会長をはじめとする生徒会みんなが支えてくれてここまで会長でいることができました。そして、生徒会が一丸となって行事を盛り上げてくれました。

体育祭では、例年以上に熱い戦いが繰り広げられました。どのクラス、どのチームも最後まで諦めず、仲間と戦う姿は熱いものを感じました。また、最後のクラス対抗リレーでは、生徒はもちろん、先生方も参加し、学校全体で盛り上がりました。

そして北陵祭では、多くの地域の方々が来てくださり、学校だけでなく、この二つの行事以外にも杜行会などがあり、その度に皆が協力し活動してきました。生徒会のメンバーは仲が良く、チームワークのいい生徒会であつたと思います。私もその中で会長ができたことを本当に嬉しく思います。

最後になりますが、新生徒会長の鈴木さんには私たちとはまた違った生徒会を作ってもらい、この真岡北陵高校をより一層発展させていってほしいと思います。そして今まで支えてくれた生徒会の皆さんや先生方に感謝したいと思います。一年間本当にお世話になりました。



家庭クラブ会長として

三年五組 塩野 谷 美 空

副会長から会長として活動し、早一年が経ちました。最初は分からないことばかりで自分に会長が務まるのかという不安がずっとあったのですが、これまでたくさんの方に支えられ、最後まで会長としての役目を全うすることができました。

家庭クラブは、今年度から災害ボランティア活動に参加することになりました。地域の人々と関わりを持ち協力しながら、私たちが少しでも地域に貢献できるよう災害時を想定しながら、取り組んでいきたいです。

年間を通じての取り組みとしてペットボトルキャップ回収、ハンドソープの詰め替え・設置、文化祭での募金活動、調理講習会などを行っています。調理講習会では、教養福祉科全学年の交流という意味も含めて開催しており、美味しいお菓子や料理を作りながら他の学年ともコミュニケーションを図ることも目的としています。

活動の中で特に私が力を入れて行ってきたものは、ペットボトルキャップの回収です。定期的に昇降口や自動販売機脇の回収ボックスに行き、回収後はシールをはがしたり、洗浄をするなどの作業があります。地道な活動ですが、これらがボランティア団体を通じてワクチンになり、世界の子ども達を救うことができます。今年も約三十七kgのキャップが集まりました。ご協力して下さった先生方、生徒の皆さん本当にありがとうございました。

今後の家庭クラブ活動が真岡北陵高校のますますの発展へと結びつきますよう祈念しております。



生徒会活動報告

顧問 荻野 真 希

今年度の生徒会活動は来年度の創立一〇〇周年に向け、様々な行事で新しいことを行う準備の年だったように思います。

四月、新式式や離任式、対面式の他にも新入生に向けた部活動紹介、行事報告や予算を決定する生徒総会を実施し、芸術鑑賞会では古典落語を鑑賞しました。五月には益子特別支援学校との交流会、畜舎での牛や豚への餌やり体験や野菜ハウスの見学を行った後、両校の生徒と一緒にカレーを食べました。最後に益子特別支援学校の生徒さんたちから、よさこい踊りを披露していただきとても良い交流会になりました。

た。六月には、クラス対抗による体育祭が行われました。始めに行われる学科対抗大縄飛びでは三学年あわせて三十八回跳んだ総合ビジネス科が見事優勝、最後に行われた学年対抗リレーでは一年生が僅差で優勝となり大いに盛り上がりました。

二学期になり十一月には本校の一大イベントである北陵祭を行いました。今年は昨年までと大きく変更した点がいくつかありました。まず、初日の校内公開であるオーピングセレモニーでは一学年と三年五組による合唱コンクールや、全クラス対抗の〇×ゲームを実施しました。合唱コンクールでは各クラスのカラードレスを着て盛り上がり、〇×ゲームは、生徒会や北陵祭実行委員の生徒らが考案した各学科や教員にちなんだ面白い

質問内容となっており、普段知ることのない北陵高校の特色を知る良いきっかけとなりました。二日目の一般公開では、例年通り農産物販売を実施するとともに、今年は北陵牧場といった牛の見学施設や、ライフル射撃部による射撃体験を新たに設け、実際に生徒が活動している内容を知ってもらった工夫を凝らしました。そして去年までは別日程で行っていた収穫祭を北陵祭の最終日に組み込みました。昨年までは農業科の三年生三クラスのみで行っていた収穫祭ですが、本年度からは総合ビジネス科、教養福祉科の生徒も参加し、野外炊飯でカレー作りを楽しみました。新たな取り組みの多かった今年の北陵祭は、生徒会だ

けでなく農業クラブと連携を図りながら大規模な行事となり、来年度の一一〇周年記念北陵祭に向けての良いスタートになったと思います。

私は、生徒会の顧問となつて生徒から学ぶべき事が多くありました。生徒たちの自主性を信じサポートさえすれば、生徒たちは自ら課題に気づき、克服するために仲間と知恵を出し合い困難を乗り越えていきます。もっと北陵を良くしたい！という生徒の想いが全ての原動力です。今まで築き上げた伝統を守り、さらなる未来への発展に繋がれるよう、生徒とともにこれから歩んでいきたいと思ひます。今後ともご支援ご協力の程よろしくお願ひいたします。

家庭クラブ活動状況について

顧問 田崎 朋 子

今年度の家庭クラブは教養福祉科の役員八名を中心に積極的な活動を展開しました。

年度当初の総会に始まり、ボトルキャップ回収やハンドソープの設置活動を行いました。八月、県連家庭クラブ総会・リーダー養成講習会に本校代表として塩野谷会長、高島副会長の二名が参加しました。各校の活動発表や課題を話し合うなど、今後の活動に繋がる有意義な時間になりました。

また、新しい活動として真岡市社会福祉協議会の協力で災害ボランティア

ア養成講座を始めました。災害時の避難所において、高校生としてまた地域の一員として何ができるのか、問題に対してどんな対応が可能かをこれまで学習した知識や技術をもとに実践的に学んでいく内容です。十一月、第四回目の勉強会では災害時の炊き出し訓練を想定した調理講習会を開き、「具だくさんすいとん・フライパン炊きご飯」の献立で実践しました。

具材の切り方や火加減など授業で学んだ技術が役立つ場面ですが、家事経験の少ない生徒にとっては戸惑う姿も見られまし

た。一方、「災害時の炊き出し」という視点から調理を見つめる事で様々な発見もありました。これらの校内活動を基に二月には社会福祉協議会主催の災害ボランティア訓練に高校生として参加し、地域の方々とともに炊き出しや運営の訓練を行います。世代を超えて交流する貴重な経験は生徒自身が地域社会の一員として地域や郷土を見つめるきっかけになればと思っています。今後学校内外にかかわらず積極的な活動をしていきたいと思ひます。

最後になりますが、今後ともご指導、ご支援をよろしくお願いいたしま



農業クラブ活動を振り返って

三年三組 藤井 愛

私は、高校二年生から農業クラブ役員になりました。最初はとち編集委員として、様々な研修会に参加させていただきまし。この一年間で、農業クラブの素晴らしさや偉大さを感じることができました。そこで私は、真岡北陵高校の農業クラブ会長になって、更なる活発な農業クラブを作り

上げたいと強く思いました。そこで十二月に行われる会長選挙に立候補し、無事に会長になることができました。会長になったことで、胸からワクワクするような感覚と楽しさを感じる反面、今までの会長のようにうまく務められることができないか不安でした。会長になったことで多

くクラブ員代表者会議や農業クラブ役員研修会に参加しました。会長になってすぐに新役員研修会があり、そこで議長や司会を務めました。初めての会長としての仕事でとても緊張しましたが、他校との交流のおかげで、たくさんの友達もでき、楽しい思い出に残る新役員研修会にすることができました。

また、研修会に参加し、他校の意見や活動内容を聞き、「この活動なら、ぜひ真岡北陵高校でも真似したい。」と多く思うこともあり、研修会に参加することは、学

校にとっても私にとっても良い刺激となりました。会長としての仕事はすべて終わってしまいましたが、来年度に繋がる土台作りは出来たと思います。来年度の農業クラブ活動は更に良い農業クラブになることを期待しています。

農業クラブ活動報告

顧問 岩田 貴宏

今年度の農業クラブの主な取り組みについて報告いたします。

今年度の栃木県農業クラブ連盟各種発表大会は、六月に真岡市民会館で開催されました。また、来年は関東大会が本校事務局にて開催されるためプレ大会としても準備・運営を行い、各校から校内選考を勝ち抜いた

代表がプロジェクト発表及び意見発表を行いました。本校からは、いずれの発表も全分野出場し、意見発表の分野：Ⅲ類「ヒューマンサービス」において食品科学科一年の榊原乃さんが優秀賞を受賞しました。他の発表者も精一杯、日頃の成果を発揮しました。また、県大会の会場運営として

も本校農業クラブ役員は受付をはじめ、会場全体・式典を担当し、スムーズな準備・運営ができるよう尽力しました。

五月には家畜審査競技会（肉牛の部）が栃木県畜産酪農研究センターを会場に行われ、本校生徒六名が参加し、精一杯頑張っていました。日頃の成果が発揮され、生物生

産科三年の荒田香さんが優秀賞を受賞し入賞しました。

七月には、本校にて農業情報処理競技会県大会が、県連盟主催の海外派遣研修会がニュージラで行われました。農業情報処理競技会では、食品科学科三年の工藤未結さんが優秀賞を受賞し、日頃の成果を精一杯発揮することができました。運営では、本校農業クラブ役員たちが事前準備や大会運営を行い滞りなく競技を進めることができました。また、県連盟で募集されたニュージランド研修には、本校から生物生産科二年の豊田潮音さん、農業機械科二年の相田拓海さん、関谷祐汰さんの計三名が参加しました。現地でのファームステイや研修を通して貴重な体験をすることができ、日本とニュージランドの異国文化を学ぶことができました。

八月には、JAしおの

や矢板地区宮農生活センターにおいてフラワールンジメント競技会が、鹿沼南高校グラウンドにて平板測量競技会が行われました。フラワールンジメント競技会では、生物生産科三年の西村美加さんが優秀賞を受賞しました。また、平板測量競技会では、農業機械科三年の石崎泰成さん、猪瀬翔大さん、鈴木凌さん、柳田毅さんのチームが出場し、日頃の練習の成果を発揮して優秀賞を勝ち取ることができました。

十月には、大阪府において第六十七回日本学校農業クラブ全国大会平成二十八年大会大阪大会が行われました。本校からは、クラブ員代表者会議に一名と、農業鑑定競技会に各学科の代表に選ばれた三名が出場しました。夏休みも毎日学校で勉強を行ったり、県連盟主催の講習会に参加したりと努力を積み重ねて挑みました。しかし、残念ながら

農ク全国大会に出場して

二年二組 板橋 力弥

今回、平成二十八年十月二十五日から二十八日かけて、大阪府で行われた第六十七回日本学校農業クラブ全国大会（大阪大会）の農業鑑定競技会に本校代表として出場しました。農業鑑定競技会は、農業の中でもそれぞれ、農業・園芸・畜産・食品・森林・農業土木・造園・生活の八つの分野に分かれています。そして、各分野に関する知識や技術を競うもので鑑定、判定、計算、測定など選択や記述問題の二問（二十秒）（最後の二問は四十秒）で計四十問を解答する競技です。私は畜産コースに出場しました。この大会に出場することになったきっかけは、校内で行われた鑑定競技会です。今年から農業機械コー

スがなく、農業機械科では畜産コースを選択して競技に臨みました。この校内での鑑定競技会で上位に残り、代表者として全国大会の切符を手に入れることができました。代表が決定してから、放課後、機械科の教室で勉強をして過去問を解いたり、ノートに専門知識をまとめたりと全国大会の鑑定競技会に向けて日々学習に取り組みしました。また、夏休みになると県連主催の勉強会があり、畜産専門の先生から専門知識を一から教えてもらい機械とは違って覚えるのが大変でした。

全国大会当日、会場の雰囲気や他の出場者に圧倒されて、正直戸惑いと不安がありました。しかし、私は負けることが嫌

今年度は農業クラブの主な取り組みについて報告いたします。

今年度の栃木県農業クラブ連盟各種発表大会は、六月に真岡市民会館で開催されました。また、来年は関東大会が本校事務局にて開催されるためプレ大会としても準備・運営を行い、各校から校内選考を勝ち抜いた

代表がプロジェクト発表及び意見発表を行いました。本校からは、いずれの発表も全分野出場し、意見発表の分野：Ⅲ類「ヒューマンサービス」において食品科学科一年の榊原乃さんが優秀賞を受賞しました。他の発表者も精一杯、日頃の成果を発揮しました。また、県大会の会場運営として

も本校農業クラブ役員は受付をはじめ、会場全体・式典を担当し、スムーズな準備・運営ができるよう尽力しました。

五月には家畜審査競技会（肉牛の部）が栃木県畜産酪農研究センターを会場に行われ、本校生徒六名が参加し、精一杯頑張っていました。日頃の成果が発揮され、生物生

産科三年の荒田香さんが優秀賞を受賞し入賞しました。

七月には、本校にて農業情報処理競技会県大会が、県連盟主催の海外派遣研修会がニュージラで行われました。農業情報処理競技会では、食品科学科三年の工藤未結さんが優秀賞を受賞し、日頃の成果を精一杯発揮することができました。運営では、本校農業クラブ役員たちが事前準備や大会運営を行い滞りなく競技を進めることができました。また、県連盟で募集されたニュージランド研修には、本校から生物生産科二年の豊田潮音さん、農業機械科二年の相田拓海さん、関谷祐汰さんの計三名が参加しました。現地でのファームステイや研修を通して貴重な体験をすることができ、日本とニュージランドの異国文化を学ぶことができました。

八月には、JAしおの

や矢板地区宮農生活センターにおいてフラワールンジメント競技会が、鹿沼南高校グラウンドにて平板測量競技会が行われました。フラワールンジメント競技会では、生物生産科三年の西村美加さんが優秀賞を受賞しました。また、平板測量競技会では、農業機械科三年の石崎泰成さん、猪瀬翔大さん、鈴木凌さん、柳田毅さんのチームが出場し、日頃の練習の成果を発揮して優秀賞を勝ち取ることができました。

十月には、大阪府において第六十七回日本学校農業クラブ全国大会平成二十八年大会大阪大会が行われました。本校からは、クラブ員代表者会議に一名と、農業鑑定競技会に各学科の代表に選ばれた三名が出場しました。夏休みも毎日学校で勉強を行ったり、県連盟主催の講習会に参加したりと努力を積み重ねて挑みました。しかし、残念ながら



農ク全国大会式典



朝市「おしゃらくマルシェ」

今年度は各競技とも力及ばず、入賞することはできませんでした。来年は、この悔しさをバネに入賞できるよう頑張りたいと思います。

校内行事では、八月下旬から九月にかけて計二回、本校農産物直売所ふれあいの家」を地域住民に開放し、地域との交流を図るため、本校生産のナシやブドウを販売する「おしゃらくマルシェ」を開催しました。地域の方々からの評判も非常に良、農業クラブ役員が

今年度は各競技とも力及ばず、入賞することはできませんでした。来年は、この悔しさをバネに入賞できるよう頑張りたいと思います。

校内行事では、八月下旬から九月にかけて計二回、本校農産物直売所ふれあいの家」を地域住民に開放し、地域との交流を図るため、本校生産のナシやブドウを販売する「おしゃらくマルシェ」を開催しました。地域の方々からの評判も非常に良、農業クラブ役員が

今年度は各競技とも力及ばず、入賞することはできませんでした。来年は、この悔しさをバネに入賞できるよう頑張りたいと思います。

校内行事では、八月下旬から九月にかけて計二回、本校農産物直売所ふれあいの家」を地域住民に開放し、地域との交流を図るため、本校生産のナシやブドウを販売する「おしゃらくマルシェ」を開催しました。地域の方々からの評判も非常に良、農業クラブ役員が

今年度は各競技とも力及ばず、入賞することはできませんでした。来年は、この悔しさをバネに入賞できるよう頑張りたいと思います。



収穫祭



とができず、悔しい思いをしました。しかし、私にはもう一度チャンスがあると思いました。来年、また校内の鑑定競技会で上位に残り、北陵高校の代表として全国大会に出て、優秀賞を勝ち取りたいと思いました。そのため、この悔しい思いを糧に、もう一度全国大会という大きな舞台に立つて結果を残せるように日々勉強に打ち込んでいきたいと思っています。

一年三組 佐藤新奈



や大変さを知ることができました。大会翌日、農業鑑定競技や各種発表大会で最優秀賞者の方々の表彰がありました。それぞれに分野で力を出し切るには、それまでの道のりは並大抵の努力なしには成し得なかったものだと思います。私はまだ農業について学び始めたばかりです。これからこれまで以上に努力していろいろ吸収していきたいと思います。そして再びこのような経験ができるよう、頑張りたいと思います。

三年二組 猪瀬翔大

二次作業の時に凡ミスをしてしまいそれが減点になってしまいました。一つのミスが勝手を左右することを改めて実感しました。自分はこの平板測に挑戦してよかったと思います。チームワークの大切さや協力することの大切さを学びました。来年度平板測量競技に挑戦するメンバーは、ぜひ全国大会へ出場できるように頑張ってほしいです。応援しています。



三年三組 藤井 愛

ちが印象に残る大会にできるようにしたいです。次期会長となる上野会長と再来年度会長となる方は、更に大勢の前で発表する機会が増え、とても不安や緊張があると思いますが、成功できることを願っています。

農業クラブに入ったことで、たくさん人の刺激を受けることができ、全てが良い思い出で良い経験でした。今後進学するにあたって大いに役立てていきたいです。

会長になったことで不安もありましたが、多くの農業クラブ役員と友人と先生方の支えがあったからこそ、無事に会長を務めることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



修復された内部

新設されたシンク

同窓會館

ライフル射撃部

関東大会を振り返って

【BR女子団体優勝】

女子ライフル射撃部

野口早也佳・古谷明日美・野口絵香

私達は、六月十日から六月十二日にかけて埼玉県長瀬町で開催された第四十二回関東高等学校ライフル射撃競技選手権大会に三年三組：野口早也佳・三年四組：古谷明日美・二年四組：野口絵香の三名でチーム種目の女子団体戦に出場し、1248・7点で優勝することができました。女子の団体戦は十二日に行われ、射撃順は一番手に

いわて国体を振り返って

三年三組 野口 早也佳

私は、平成二十八年九月三十日から十月五日にかけて岩手県八幡平市で開催された第七十一回国民体育大会「2016希望郷いわて国体」ライフル射撃競技会にチーム・ライフル少年女子立射四十発競技と二十発競技の二種目に出場しました。私は今回で二回目の出場となります。昨年と同種目に出場し、その時の成績は四十発競技で二位入賞、二十発競技で四位入賞という結果を残すことができました。国体という大きな大会で入賞することができ、嬉しかったと同時に悔しいと

手が出場していて気持ちで負けないように互に声かけを行いました。そのおかげで、イメージしていた通りに競技をすることができました。全射群が終わり、速報掲示板に成績を確認しに行き、「優勝」という二文字を見た時の喜びは忘れられません。団体戦で優勝を掴み取ることができ、今まで先輩達の背中を追いかけていた私達が、ようやく先輩達に近付けたと思える大会となりました。この大会で、私達はチームメイトの大切さや目標を持って努力することができたことを知り、また、このような結果を残すことができた

のは、日々の練習で時には厳しく、時には優しく指導してくださった顧問の先生や後輩達の応援・サポートがあったからこそだと思います。団体メンバー以外に部員全員が一緒に喜んでくれたことは、本当に幸せでした。応援してくれた方々に感謝を忘れず、来年度は優勝を経験した団体メ

ンバーの一人が他の部員を引っ張り、大きな大会で成績を残せるように頑張ってもらいたいです。

と同じ順位での入賞となり、悔しい思いでした。しかし、翌日には本命の四十発競技がある中で、気持ちを切り替えて競技に出場しようと考えました。四十発競技の当日、全二射群ある中で私は二射群目でした。一射群目が終了して私の撃つ順番で射座に入りました。チームの皆さんから声援を受けて競技が始まり、初発から四十発まで攻める射撃を行いました。結果は417・1点で予選を五位で通過し、決勝戦（ファイナル競技）への出場権を得ることができました。上位八名が出そろい、決勝戦が行われました。一発一発十センチを狙う気持ちで競技に臨み、メダリスト争い

まで残りしました。途中、順位を落としてしまうこともありました。最後まで粘る射撃を行い、二位の選手に0・4点差を付け、209・5点の大会新記録で悲願の優勝をすることができました。昨年のリベンジを果たすことができたこと、チームの皆さんから声援を受けて競技が始まり、初発から四十発まで攻める射撃を行いました。結果は417・1点で予選を五位で通過し、決勝戦（ファイナル競技）への出場権を得ることができました。上位八名が出そろい、決勝戦が行われました。一発一発十センチを狙う気持ちで競技に臨み、メダリスト争い

場いろいろな経験や射撃の楽しさを改めて知ることができ、国体という大きな舞台で競技ができたことを誇りに思いました。この経験を生かし、自身の成長の糧としていきたいと思っています。

たすことができたこと、チームの皆さんから声援を受けて競技が始まり、初発から四十発まで攻める射撃を行いました。結果は417・1点で予選を五位で通過し、決勝戦（ファイナル競技）への出場権を得ることができました。上位八名が出そろい、決勝戦が行われました。一発一発十センチを狙う気持ちで競技に臨み、メダリスト争い

たすことができたこと、チームの皆さんから声援を受けて競技が始まり、初発から四十発まで攻める射撃を行いました。結果は417・1点で予選を五位で通過し、決勝戦（ファイナル競技）への出場権を得ることができました。上位八名が出そろい、決勝戦が行われました。一発一発十センチを狙う気持ちで競技に臨み、メダリスト争い

平成 28 年度 3 年生の進路状況

在籍数	男子		女子		合計	
	学 科 名		学 科 名		学 科 名	
在籍数	生物生産科	19	17	36	生物生産科	19
	農業機械科	33	2	35	農業機械科	33
	食品科学科	10	26	36	食品科学科	10
	総合ビジネス科	7	31	38	総合ビジネス科	7
	教養福祉科	5	19	24	教養福祉科	5
合 計		74	95	169	合 計	74
(在家、その他4名)						
就職	公務員		県内		県外	
	学 科 名		学 科 名		学 科 名	
就職	生物生産科	0	0	15	11	0
	農業機械科	0	0	23	1	0
	食品科学科	0	0	4	12	0
	総合ビジネス科	0	0	3	14	0
	教養福祉科	0	0	3	13	0
合 計		0	0	48	51	0
進学	国公立大学		私立大学		国公立短大	
	学 科 名		学 科 名		学 科 名	
進学	生物生産科	0	0	1	0	0
	農業機械科	0	0	2	0	0
	食品科学科	0	0	0	2	0
	総合ビジネス科	0	1	2	0	0
	教養福祉科	0	0	1	1	0
合 計		0	1	6	3	0

進路室から

進路指導部長 町 田 則 人

今年の求人状況は、昨年よりさらに一〇%ほど増加しました。就職内定者は百五十五名です。男子の一名、女子の二名以外は自宅外通勤です。六年前と比べますと企業の採用担当者の対応は変わりました。多くの企業が人手不足を訴えています。係としては、求人を集めるという点では楽になってきました。真岡地区は製造業を中核としているので、男子にとっては恵まれた雇用環境です。残念ながら、女子における製造業の求人は横ばいです。今年も女子の求職者が増加したこともあり、高倍率となりました。女子求人は販売職、サービス職が多く、製造や事務職となるとたんに少な

近年、日本の農業は岐路に立たされています。農業は国の根幹です。ヨーロッパ、アメリカでは国が農業の所得補償をしています。将来、主食となるコメはだいじょうぶなのでしょうか。本校は農業科を前身とする高校です。しかしながら、自営以外の農業従事者はほとんどおりません。求人ありません。一件だけ二宮の農家から問い合わせがありました。本校には農に対する意識が高い生徒が少なくありません。農にとって重要な人材にもなりうると思うのです。

編集後記

平成二十八年は天候不順の年でした。一月には沖縄地方でも雪が降り、九月には長雨が続き、東北・北海道が大雨となり、野菜の価格が十二月まで高値となり、十一月末東京に雪が降りました。これらのことは日本だけでは無い様子です。自然の力の大きさを思い知らされる思いが致します。二十九年度秋には、本校の百周年式典が予定されています。真に歴史のページを作ったと言っても過言では無いでしょう。芳賀地方の農業を始め、多くの産業発展に多大な力量を尽くしてきたことを、卒業生として誇りに思う心でござい

